



駐日大使は語る チュニジア共和国番外編

駐日チュニジア共和国大使

モハメッド・エルーミ

七三号に掲載したインタビュ後の

八月二七〜二八日、チュニジアで第8回

アフリカ開発会議（TICAD8）が開催された。

会議の成果や日・アフリカ関係の展望について、

エルーミ大使に話を聞いた。

## 開催国チュニジア 実り多きTICAD8

「インタビュ・構成」小南有紀

——TICAD8を振り返っていかがですか。

**大使** アフリカの四八カ国から二〇名の首脳級が参加したに加えて、国連や国連開発計画、世界銀行などの国際機関、および民間企業、市民社会の代表者らも参加し、一二〇名を超えるジャーナリストが取材に訪れました。幸いなことに、我が国のもてなしや会議運営に関して、日本をはじめとする各国から称賛をいただきました。開催国としての務めを十分に果たせたことを、嬉しく思っています。

Mohamed Elloumi

1973 年生まれ。カルタゴ商科大学、チュニジア外交学院を卒業後、マドリッド国際貿易研究センターで修士号取得。在オタワ・チュニジア大使館参事官などを務めた後、2011～16 年に駐日チュニジア大使館次席参事官。13 年にチュニジア国家功労賞を受賞。18 年 10 月より現職。

TICAD8 に先立って行われたカイス・サイード大統領と岸田文雄首相のテレビ会談（内閣広報室）

TICAD8 は、法の支配や民主主義、持続可能性に基づく新たな開発アプローチを描き出したという点で、アフリカにとって画期的なイベントになりました。若い世代を中心とした「人への投資」が重視され、強靱性を持ったアフリカの実現が目指されたのです。TICAD8 は、三角協力（途上国が他の途上国に対して行う南南協力を、先進国や国際機関が支援すること）の好例だといえるでしょう。

——アフリカへの日本の支援については、どのように見

ておられますか。

**大使** 岸田文雄首相は開会式の中で、今後三年間で官民合わせて総額三〇〇億ドルをアフリカ諸国の支援のために提供することを表明されました。この支援は、グリーン成長、保健、教育、農業などの幅広い分野にまたがるものです。

「TICAD8チュニス宣言」では、包括的かつ持続可能な開発を達成するべく、投資の促進、日本企業とアフリカ企業との連携や技術移転を通じた民間セクターのイノベーション促進、産業人材の育成強化のための日・アフリカ間の連携の重要性が再確認されました。アフリカに対する日本のコミットメントが、明確に示されたと思います。

また、TICAD8には、日本の民間セクターから多くのの方々にご参加いただきました。会議の期間中、日本、チュニジア、アフリカ各国から総勢三〇〇名以上のビジネス関係者が「ビジネス・フォーラム」などに出席しました。これは、日・アフリカ間の連携を強化しているという、ビジネス界の強い意志の表れだといえます。

——今後の日・チュニジア関係への期待をお聞かせください。

**大使** 一九五六年のチュニジア独立以来、我が国と日本は緊密な協力関係にあり、類いまれかつ揺るぎない絆で結ば

れています。八月二六日に行われた日・チュニジア首脳会谈で、カイス・サイド大統領は両国の協力関係をいっそう高いレベルのものへと引き上げる意欲を表し、日本からチュニジアへの投資が増えることに期待を示しました。会谈後に「持続可能な開発、平和そして繁栄に向けた新たなパートナーシップ」と題する共同声明が発出され、両首脳は民主主義、人権および法の支配といった基本的な価値に対するコミットメントを再確認しました。

首相特使としてチュニジアを訪問された林芳正外務大臣とオスマン・ジェランディ外務・移民・在外チュニジア人大臣の間でも、大変有意義な会談が行われ、「技術協力協定」と「二国間クレジット制度に関する協力覚書」が署名されました。両国の協力が具体的な形で進展しています。

岸田首相がおっしゃったように、アフリカ市場でチュニジアと日本の企業はウインウインの関係を築けると思います。チュニジアは地中海に面する位置にあり、若者による起業が活発な国です。ビジネスに必要なアセットも全てそろっています。それゆえ、日本企業にとって、我が国はこの地域におけるビジネスの「ハブ」になるはずです。日・チュニジア関係の将来は明るく、TICAD8はその大きな一歩となったのです。●